

序 文

島田市伊太に位置する田代地区は、千葉山智満寺に続く丁仏参道や落武者伝説の残る、山に囲まれた集落でした。島田市では、平成8年（1996年）から新東名高速道路建設工事に伴い発生した残土を使い、「田代の郷整備事業」を進めてまいりました。この事業では、市から発生するごみを処理するための焼却施設「島田市田代環境プラザ」、地域の憩いの場として毎年多くの方が訪れる「伊太和里の湯」をはじめとして、さまざまな施設が建設されました。そして、スポーツ・レクリエーション広場として「島田ゆめ・みらいパーク」が令和2年（2020年）に開園したことで、田代の郷整備事業は終了となりました。

それに伴い、26年間という異例の長さで続けられてきた環境保全に係る各種検討会も閉会しました。このように熱心な取り組みが行われてきた背景には、整備事業の開始直後に、貴重な猛禽類であるオオタカの巣が、工事現場で見つかったことにあります。田代地区は元来、盆地地形に起因する湿潤な環境を特徴とする自然豊かな地域で、整備事業を進めるにあたり、絶対的な要件として自然環境の保全・復元を最重視していました。その後、クマタカの営巣確認をきっかけに自然保護の機運はさらに高まり、環境の保全・復元に資するための動植物の調査、及びそれに基づく数々の対応策を検討してきました。その結果、多くの施設を次々に整備するという大事業にもかかわらず、工事開始から20年以上が経過した現在でも、クマタカやハチクマ、サシバのような猛禽類を頂点とした多くの生き物が生息する場所となっています。

このガイドブックは、田代の郷がどういうところなのか、すなわち、もとはどういった環境で、どのような経緯により開発され、どのように自然を守る手段が取られ、今はどんなふうに活用されているのか、そういったことを市民のみなさんに知っていただくことを目的として、資料や教材として活用されることを期待しています。そして、地域の自然環境や歴史を学ぶ端緒となるようなものでありたいと願っています。

なお、田代地区の自然環境保全に携わっていただいたNEXCO中日本(株)や多くの研究者の皆様、田代の郷整備事業に御協力いただいた、田代地区をはじめとする伊太・大津地区の皆様、そして事業開始前から終了まで田代の郷の自然の変化を調査し、報告していただいた(株)応用生物、その他関係機関など多くの方々に、心より感謝を申し上げます。

令和5年3月31日

島田市長 染谷絹代

はじめに

(1) このガイドブックについて

田代地区は新東名高速道路のトンネル工事で発生した掘削土砂の埋め立て場所となりました（工事は平成 13（2001）年～平成 21（2009）年に中日本高速道路株式会社東京支社静岡工事事務所―当初日本道路公団 2005 年から民営化により NEXCO 中日本(株)が実施）。埋め立て完了後は、島田市による「田代の郷整備事業」が進められ、市民のための各種施設が建設されました。

一方、田代地区には豊かな自然が多く存在していたことから、埋め立て工事開始前の平成 8（1996）年から自然環境保全対策調査が開始され、学識経験者や地元有識者を交えた検討委員会を開催、そこで検討・提案された様々な自然環境保全対策が実施されました。上述の自然環境保全対策調査は令和 3（2021）年までの約 26 年間にわたって続けられました。すなわち、田代地区における自然環境の状況を、埋め立て工事前、埋め立て工事中、工事後の土地利用に至るまで長期にわたって見てきたこととなります。そして本調査の結果から提案された田代の自然を守るための様々な保全対策はその後の追跡調査によっても有効に機能していることが明らかにされその成果が評価されています。

このガイドブックは埋め立て工事と、その後の土地利用計画にかかわる一連の自然環境保全の考え方と実践の軌跡を、次の観点から一般の市民の方々にも広く伝え、田代の郷をよりよく知っていただく目的でとりまとめたものです。

- ・明らかにされた田代地区の自然環境の貴重性、特殊性を、あらためて島田市民をはじめ多くの方に知っていただく。
- ・田代地区で実施された自然環境保全に対する取り組み姿勢や保全の技術的な内容（基本方針、取り組み体制、対策内容）を広く関係者に知っていただく。

(2) 自然環境保全対策調査について

調査主体は当初 NEXCO 中日本(株) (2004 年までは日本道路公団) でしたが、平成 21 (2009) 年 12 月の埋め立て工事完了に伴い、平成 22 (2010) 年 5 月からは、この土地利用を行う島田市に代わっています。工事中は自然環境全般のほか、ワシタカ類や希少植物の保全を行い、島田市の調査では、埋め立てられた田代の自然に対して土地利用計画がどのように影響するかについて調べたものです。なお、当該地域の自然環境の保全については、平成 8 (1996) 年～平成 14 (2002) 年の 7 年間は NEXCO 中日本主催の自然環境保全対策検討会が延べ 7 回開催され、平成 14 (2002) 年の当該地におけるクマタカ繁殖成功以降は、静岡県ワシタカ類保護検討委員会¹がほぼ毎年開催 (延べ 17 回) されました。また、平成 16 (2004) 年度には島田市において土地利用計画策定のための委員会が 3 回、住民代表を含めた作業部会が 10 回開催されました。その後、島田市の「田代の郷整備事業」の完了に伴い、令和 3 (2021) 年 11 月 19 日に第 17 回の静岡県ワシタカ類保護検討委員会を開催、これをもって委員会は終了し、また、当年度 (令和 3 (2021) 年) において島田市の調査も終了しました。この間、当該地における埋め立て工事、土地利用は、表 1 に示したように進められました。

表 1 田代地区における工事・土地利用の経緯 (詳細は資料編 10 参照)

工事等(事業者)	工事等の内容
埋め立て工事 (NEXCO中日本(株)) 1996～2009年 (延べ14年)	・平成8(1996)年：埋め立て工事前の調査開始。
	・平成12(2000)年：4月埋め立て工事開始。
	・平成21(2009)年：埋め立て工事終了。
土地利用(島田市) 2010～2021年 (延べ12年)	・平成16(2004)年：島田市田代環境プラザ(ゴミ焼却場)の建設・稼働。
	・平成19(2007)～平成21(2009)年 ：温浴施設(田代の郷温泉「伊太和里の湯」)の建設・供用。
	・平成23(2011)年 ：市営霊園(第1工区)の建設・翌年供用。運動公園の建設開始(途中事業見直し)。
	・平成25(2013)～平成26(2014)年 ：メガソーラー設置運営事業(ソーラーパークしまだ)が8月から施工、翌年1月には供用開始。
	・平成26(2014)～平成27(2015)年 ：市立霊園(第2工区)工事が7月から開始、翌年2月供用開始。
	・平成30(2018)～令和2(2020)年 ：多目的スポーツ・レクリエーション広場の工事が8月から開始され、令和2(2020)年3月には遊具類の設置が終了。広場のオープンはコロナ禍の影響を受けて遅れ、令和2(2020)年6月からとなった。
・令和3(2021)年 ：土地利用に関する施設建設が全て完了したため、当年度26年間継続してきた調査を終了。	

注) 検討会・委員会等

- ・ NEXCO 中日本(株) (旧：日本道路公団) 主催の検討会 7 回：1996. 6～2002. 5
- ・ 静岡県主催の静岡県ワシタカ類保護検討委員会 17 回：2002. 8～2021. 11
- ・ 島田市主催の土地利用委員会 3 回：2004 年度
- ・ 島田市主催の作業部会 10 回：2004 年度

¹ 静岡県ワシタカ類保護検討委員：県内のワシタカ類の問題に関して審議する専門委員からなる委員会



写真1 本ガイドブックで取り上げる範囲、田代地区及び周辺域の概略範囲
地理院タイルを加工して作成（地形図は資料編参照）

(3) 調査事業者より

田代の郷は、新東名高速道路のトンネル工事で発生した掘削土砂の埋め立てにより生まれました。事業に先立ち、埋め立てられる前の事前調査が平成8（1996）年から日本道路公団（のちのNEXCO 中日本株）により開始されました。その結果、田代地区は周囲に山が迫る小規模な盆地地形で、風が弱く空中湿度が高いためにシダ植物、着生ランも豊富で、小さな沢や小河川にはカワムツ、タカハヤなどの魚類やカジカガエルなどのカエル類のほか、海域とのつながりを示すモクズガニも見られました。鳥類も豊富でサンコウチョウなどの樹林性の夏鳥やオオタカなどの猛禽類のほか、イノシシなど大型哺乳類も普通に出現していました。このような豊かな自然を埋め立て後にも残すためにはどうしたら良いか学識経験者や地元有識者を交えた検討会を開催（平成8（1996）年～平成14（2002）年の7年間に延べ7回）、その中で次々に明らかになる調査結果を基に検討を重ねました。田代の自然の仕組みを捉え、具体的な自然の特性を重視したこうした進め方は埋め立て工事にも引き継がれ、大きな変更の中でも旧来の自然の機能を少しでも残す、あるいは創出するという考えのもとに進められました。調査主体は当初日本道路公団（のちのNEXCO 中日本株）でしたが、平成21（2009）年12月の埋め立て工事完了に伴い、平成22（2010）年5月からは、埋め立て後の土地利用を行う島田市に代わっています。島田市の調査は、田代の郷整備事業に伴う各種施設の自然に対する影響を事前に予測し、対策を検討するというもので、側溝にフタをすることで小動物の影響を軽減したり、モリアオガエルの代替産卵池を設けたり、動物の横断橋を造って移動路を確保したり、ワシタカ類の繁殖活動を見守るといった対策を実施しました。

平成14（2002）年の当該地におけるクマタカ繁殖成功以降は、静岡県ワシタカ類保護検討委員会も加わりほぼ毎年（延べ17回）開催されました。また、平成16（2004）年度には島田市において土地利用計画策定のための委員会が3回、住民代表を含めた作業部会が10回開催されています。その後、「田代の郷整備事業」の完了に伴い、島田市の調査は令和3（2021）年度に終了し、静岡県ワシタカ類保護検討委員会も同年11月19日の第17回委員会をもって終了しました。

この間およそ26年、埋め立て工事前から埋め立て工事中、そして「田代の郷」事業の完成に至るまで一貫して田代地区の自然環境の変化を記録し、あるいは予測して保全対策の検討を行い、実践してきました。このガイドブックは開発事業の中で、「豊かな自然をいかに守るか」の数少ない実例としてまとめました。

手にとって下さった方には田代の地区で行われた自然環境保全の基本的な考え方、取り組み姿勢、保全手法などをご覧いただき、ご批評などいただければ幸いです。